

トマト黄化葉巻病、トマト黄化病の発生に注意しましょう！

現在、トマト黄化葉巻病、黄化病の発生は少ないものの、媒介するコナジラミ類の発生程度は平年並みであり、今後も気温が高い状況が続くことから、これら病害の発生が懸念されますので、発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。

1 トマト黄化葉巻病

トマト黄化葉巻病はTYLCV（*Tomato yellow leaf curl virus*）による病害です。発病初期は新葉の周縁部が退緑しながら葉巻症状となり、葉脈間が黄化し縮葉となります（写真1、2）。症状が進むと、節間が短縮して株全体が萎縮症状を呈し、生育が抑制されます。特に育苗期から生育初期に感染すると病徴は激しくなります。

感染したトマトを吸汁したタバココナジラミ（写真3）が保毒虫となり、別のトマトにウイルスを媒介します。なお、オンシツコナジラミ（写真4）は病原ウイルスを媒介しません。



写真1 葉の葉巻症状



写真2 葉の黄化症状



写真3 タバココナジラミ成虫



写真4 オンシツコナジラミ成虫

2 トマト黄化病

トマト黄化病はToCV（*Tomato chlorosis virus*）による病害です。発病初期は下位葉の葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、えそ症状が現れます（写真5、6）。これらの症状は苦土欠乏症状などの生理障害ときわめてよく似ています。

タバココナジラミとオンシツコナジラミが保毒虫となり、病原ウイルスを媒介します。



写真5 葉の黄化とえそ症状



写真6 葉の黄化症状

【トマト黄化葉巻病、トマト黄化病の防除対策】

発生を防ぐには、病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を栽培施設に「**入れない、増やさない、出さない**」ことが大切です

(1) コナジラミ類を施設内に入れない対策

- ・ハウスの開口部に 0.4mm目合い以下のネットを張る。出入口はネットを2重にする。
- ・ハウス周囲に光反射シートを設置し、コナジラミ類の侵入を抑制する。
- ・感染が疑われる苗は定植しない。
- ・台風通過後等、外部からの侵入が生じる可能性がある際には重点的に防除を行う。

(2) コナジラミ類を施設内で増やさない対策

- ・育苗期や定植時に粒剤を施用する（表1）。
- ・本虫は低密度の発生でもウイルスを媒介する。黄色粘着トラップを設置して発生動向を観察し、発生初期のうちに防除する（表1）。
- ・発病株は見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出して土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。発症部分だけの切除は行わない。
- ・抵抗性品種は症状が出ない場合があるが、感染し伝染源となるため、感受性品種と同様に早期防除を徹底する。
- ・ほ場内又はほ場周辺の除草を行う。

(3) コナジラミ類を施設外に出さない対策

- ・栽培終了時に全ての株を地際から切断した上で蒸し込み処理を行い、残さに寄生しているコナジラミ類を完全に死滅させる。蒸し込み処理は、ハウス内が 40℃前後を維持する時間が1日平均7時間以上確保できる条件で3日間以上とする。
- ・前作で多発したほ場では、コナジラミ類まん延防止のため、キルパー（表1）を使用する。

表1 コナジラミ類に登録のある主な薬剤 (令和5(2023)年8月8日現在)

	農薬通称	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の 使用回数 ^{※1}	IRACコード
定植時	アベイル粒剤	育苗期後半 ～定植当日	2g/株	株元散布	1回	4A 28
	スタークル粒剤	定植時	1～2g/株	植穴土壌混和	1回	4A
	ダントツ粒剤	定植時	1～2g/株	植穴処理土壌混和	1回	
	ベストガード粒剤	定植時	1～2g/株	植穴処理土壌混和	1回	
	モスピラン粒剤	定植前日～定植当日	1g/株	株元散布	1回	4A
		定植時	1g/株	植穴土壌混和	1回	
	プリロン粒剤	育苗期後半～定植時	2g/株	株元散布	1回	28
生育期	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	トランスフォームフロアブル	収穫前日まで	1000～2000倍	散布	2回以内	4C
	ディアナSC	収穫前日まで	2500倍	散布	2回以内	5
	アニキ乳剤	収穫前日まで	1000～2000倍	散布	3回以内	6
	コロマイト乳剤	収穫前日まで	1500倍	散布	2回以内	
	コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	4000倍	散布	3回以内	9B
	アブロードエースフロアブル	収穫前日まで	1000～2000倍	散布	3回以内	21A 16
	モベントフロアブル ^{※2}	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	23
	ベネビアOD	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	28
	エコビタ液剤	収穫前日まで	100～200倍	散布	-	-
サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	300倍	散布	-	-	
終了栽培時	キルパー ^{※3}	前作の栽培終了後から残渣撤去まで 但し、は種又は定植の15日前まで	原液として 40～60L/10a	予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。	1回	8F

※1 同じ有効成分が含まれる薬剤は、成分の総使用回数に注意すること

※2 マルハナバチ影響日数が長いため、導入ほ場では散布時期に注意すること

※3 キルパーの適用病害虫名は「前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止」

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（旧ツイッター）（@tochigi_nousei）」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。

